C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf２０１５　園長だより３月号　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（平成27年3月13日発行）

これも躾か！？―母と私の今―

　ある日，つくば市内まで車で行った買い物の帰り道，車内での母（８６歳）と私（６１歳）の会話。

私：土曜日は（道路が）空いででいいなあ。混でっとイライラすんだよな。

母：どっかでは５人も死んだそうだよ。猛スピードでなんかにぶづがって。

私：俺はよく生ぎ延びでるよな。（事故を起こしそうになったわけではないが，その時高速道路を１１５

㎞／ｈで走っていた。）

母：んだなあ。まあよぐがんばったな。

私：いじゃげでもなんとがやってきたな。

母：よぐ我慢もしたんだっぺ。

私：・・・まあ親のおがげだっぺ。ちっちゃいどぎがらよぐ我慢はしたな。これがほしいって言っても我慢。あれが食べてぇって言っても我慢。まあおがげさまだな。

と，まあこんな感じ。思い出しながら書いたので言葉が少し違うかもしれませんが，まあこんなところです。なんでまたこんな事を書いたんだって？ちょっと覚えておきたい事だなって直感的に思ったのと，一番は「園長便り」に使えるかもって思ったからです。忘れないようにと家に着いてすぐにパソコンの前に座りました。ネタ探しに結構時間がかかっていますので。「我慢は大切だ。」なんて今更人様に向かって言うのもおこがましいと思えるのですが，この便りは私の言いたいことだけ書いている，唯我独尊の機会ですので勘弁してください。我慢ばっかりで年老いたような私の母をみていると，もう我慢させたくないなあと思うばかりでなく，そのお陰で私があるんだと感謝せずにはいられません。いくつになるまで一緒にいられるかわかりませんが，その時が来るまで恩返しをしていきたいと思います。なんて書くとちょっと気恥ずかしいわけですが，正直なところそういうことですので・・・。

　私の日課の一つに，「朝の肩もみ」があります。ほんの１，２分間の時が多いですが，気が向くと５，６分の時もあります。今でも昔と同じように『ああ～極楽だ』『ああ～いぎ（生き）がえる（還る）。』などと母はいつも言います。いつから始めたか忘れましたが，毎日やるようになって５，６年ではきかないと思います。習慣とは恐ろしいもので，頼まれもしないのにやらないと気が済まなくなるというか・・・。忘れて出かけたらその日にぽっくり亡くなった，などということを思い浮かべると後悔しそうでますますやらずにいられなくなるというところです。母の私への作戦は成功したといえるのではないでしょうか。幼い頃から肩もみ，肩たたきはよくやらされましたが，「やらされた」と思っていたらこんなに何十年も（毎日ずっとやってきたわけではありませんが。途切れ途切れではあっても。）は続かなかったと思います。いつでもこちらが気持よくなるような言葉を返されて，気が付くと『いつでも揉んでやるよ。』などと口走ってしまう自分がいるのです。上手にのせられ，のせられここまできているわけです。そうして育った私ですから，私のやり方は当然そのようになるわけなのですが，しかしこれが案外むずかしく，他人に対しては簡単に通じないこともしばしばです。ですから，おだてればいつでもうまくいくということではありませんが，私としてはこの方法に頼ること多々です。特に思春期未満の子どもでしたら効果ありと感じます。

　幼い我が子と一緒のお母様方も多分多用している方法だと思いますが，必ずや成果は挙がると確信し，がんばってください。ただ注意点が一つ考えられます。それは，本当に気持ちがいい時には，『気持ちいい！』

と特別に気持ちを込めて言ってやり，そうでもない時との微妙な違いを覚え込ませるといいのではないかということです。同じお礼を言われるのでも，その微妙な違いを我が子は嗅ぎ分けるに違いないと思います。

【　園長　　平澤　正則　】